

## 第1回 雪害に強い果樹産地づくり検討会 議事概要

1 日時：令和8年4月15日（水）13:30～15:30

2 場所：東北農政局7階会議室（オンライン併用）

### 3 検討会構成員

（東北農政局管内6県）

三上 一哉	青森県農林水産部りんご果樹課長
藤井 智克	岩手県農林水産部農産園芸課園芸特産担当課長（代理出席）
伊藤 晋	宮城県農政部園芸推進課長
石澤 浩樹	秋田県農林水産部園芸振興課長
安達 栄介	山形県農林水産部園芸大国推進課課長補佐
大高 圭申	福島県農林水産部園芸課主幹兼副課長

（農林水産省）

羽石 洋平	農産局果樹・茶グループ長
○岩崎 光徳	技術会議事務局研究統括官付研究専門官
宇佐美 直樹	東北農政局生産部園芸特産課長

（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）

◎岩波 宏	果樹茶業研究部門リンゴ研究領域長
-------	------------------

◎：座長 ○：座長代理

### 4 議題

- （1）東北における果樹産地の状況等について
- （2）りんごの雪害に強い栽培方法の導入拡大に向けた課題について
- （3）日本なしの雪害に強い栽培方法の確立に向けた課題について
- （4）苗木の確保に向けた課題について

### 5 検討会における主な意見

（1）りんごの雪害に強い栽培方法の導入拡大に向けた課題について

- ・この2年間の豪雪により、雪に慣れた地域においても交通機能や市民生活に支障が生じ、農道の除雪遅延により、園地での雪害対応が困難となり被害が発生した。近年特に積雪深が増しているとの声がある。
- ・高密度植栽培は、収量向上が期待され、平場では雪害の影響が比較的少ないとされているが、枝の下方への誘引等の作業負担が大きく、品種や園地条件が限られることから、地域によって導入は容易ではない場合もある。
- ・生産者の高齢化により、植え替えが体力的にも進んでいない一方、若手生産者の中には高密度植栽培に関心を持ち、実際に導入する事例も見られる。
- ・支柱による対策も実施されているが、平場と傾斜地では資材導入等の負担に差がある。
- ・朝日ロンバス方式は、雪害に強いとされ、新植時や若手生産者を中心に導入が進んでいる地域がある。

- ・今回雪害の影響が見られた丸葉栽培（台木：マルバカイドウ）は慣行栽培方法であるが、品質や食味から丸葉を好んで選択する農家もいる。

（２）日本なしの雪害に強い栽培方法の確立に向けた課題について

- ・日本なしの栽培方法は棚仕立てが主流であるが、積雪により棚が倒壊する事例が確認されており、現行の主な対策はその都度雪下ろしを行うことである。県では積雪前の粗剪定により枝数を減らすことで、樹上冠雪量が減少し雪害の軽減に繋がるほか、枝間に空間を確保することができ、雪おろしが簡便になるため当該手法を推奨している。
- ・雪害を経験した生産者の中には、V字仕立ての栽培方法に関心を示す者もいることから、V字仕立てに係る雪の荷重計算に係る知見の共有をいただければありがたい。荷重計算については、実証データの蓄積が重要と思う。

（３）苗木の確保に向けた課題について

- ・東北地域外ではあるが、高密植栽培を早期に導入している県で生産者団体が苗木の供給に参画している事例がある。
- ・農林水産省では、昨年度より全国の苗木の需要量調査を実施。今後は、省力樹形の分類も含めた苗木の需要量調査の実施を検討するとともに、地域ごとの苗木の供給量の調査についても検討していきたい。
- ・高密植栽培に用いられる苗木用台木が増殖に時間と労力を要するとの点について、挿し木で比較的容易に増殖可能な台木を農研機構が開発しており、今後の普及促進を検討していきたい。
- ・各県の苗木業者の在庫情報を含む苗木の需給に関する情報を共有することは有意義ではないか。

以上